

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第251号

発行者
茨城県学校長会
会長 大塚 昌弘
事務局
〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

特色ある学校経営 行財政・調査研究委員会の要望や取組



目次

○表紙写真に寄せて……………	1
○(特集1) 特色ある学校経営……………	2
○(特集2) 行財政・調査研究 委員会の要望や取組……………	6
○特別寄稿「十年先、二十年先を 生き抜く力」……………	7
○経営研究「創意工夫を生かした 特色ある教育課程」……………	8
○課題「部活動改革」……………	10
○市町村教育委員会と 学校長会……………	11
○梅のかおり……………	12
○図書案内……………	14
○ひばり……………	15

運動好きな児童の育成を 目指して

かすみがうら・志筑小
井元 潤一

本校は令和元年度から体育大好き推進委員会を中心に、体育科の授業改善及び児童の体力向上に取り組んでいます。毎週木曜日のロング昼休みには体力向上の取組を全校児童で行っています。また、本校の児童が身につけた「志筑体操」は、授業や行事等で積極的に活用しています。これらの取組により、運動好きな児童が増え、今年度の体力テストでは、A+Bの割合が八八・九%まで向上しました。現在は、端末を活用した体育科の授業改善に取り組んでいます。

特集
1

特色ある学校経営

明日もまた来なくなる学校づくり

東茨城・石塚小 鈴木 勝

本校は、二年後に百五十周年を迎える伝統ある学校である。地域の中心的な役割を担い、校歌には「さかえ行く店 わたしら石塚小学生 大きな使命 自覚して 町の平和に 世のため に」という歌詞が残っている。しかし過疎化が進み、ここ十年で児童数が二百人程減少し、現在三六四名である。

一 学校経営の基本方針

「明日もまた来なくなる学校づくり」。これが学校経営の基本方針として掲げている本校のキャッチフレーズである。全校集会や学校だよりでは、必ずこのキャッチフレーズにふれるようにしている。それにより、「明日もまた来なくなる」というフレーズは、児童・教職員の間にしっかりと浸透している。

「明日もまた来なくなる学校づくり」は、言い換えれば「魅力ある学校づくり」である。それを、児童・教職員にとってイメージしやすく、誰でも分かるシンプルな言葉に表すことで、徹底させることにつながると考えた。

二 笑顔の大切さ

「笑顔でいると、物事は良い

方向に動いていくよ」。本校に赴任した際に先生方へ伝えた言葉である。現在、本校の子供たちは楽しく学校生活を送り、先生方も生き生きと教育活動に取り組んでいる。以前、本校児童の課題として挙げられていた「思いやり」が、いつの間にか長所として挙げられるようになった。先生方は、「特に何もしていない」と言っている。きつ

と、笑顔でいる教師の姿が、児童にとってのモデルになったのではないだろうか。

三 生徒指導の三機能

本校の重点施策として掲げているのが「生徒指導の三機能を生かして」ということである。すべての教育活動において、生徒指導の三機能を意識した取組を行うようにしている。

(一)自己決定の場を与える

常に「相手」と「自分」の両者を中心にすえて行動する。身勝手な「自己決定」ではない。

(二)自己存在感を与える

子供一人一人の存在を大切に思っ指導する。子供の独自性や個性を大切に育む。

(三)共感的人間関係を育む

相互に人間として尊重し合う態度。教師と子供の関係だけでなく、子供同士の間でも大切にする。

四 教員評価における目標設定

組織目標

「明日もまた来なくなる学校づくり」

生徒指導の三機能を生かした教育活動を推進し、主体性・社会性を育む。

組織目標を受け、グループ目標、自己目標を設定した。その際、学習指導・学級経営については、自己決定・共感的人間関係を強く意識して設定させた。

特に共感的人間関係については、児童同士のつながりを育むことを意識して設定させた。

五 働き方改革

働き方改革。これはまさしく教師にとっての「明日もまた来なくなる学校づくり」である。働き方改革を二つの視点から考え取り組んでいる。

(一)「負担」(減) 仕事量

・専科教員による指導

三・六学年(音楽)

五・六学年(家庭)

・週二回の五時間授業

学級担任持時数 週二十五

(二)「負担感」(減) ストレス

笑顔↓安心・安定↓
トラブル減↓ゆとり・
ストレス減↓笑顔↓

前述した「笑顔」からスタートしているサイクル。これに、チームワーク(サポート・支援)、段取り(見通し・計画性)がうまく機能し、教職員の「負担感」は減少している。

六 おわりに

「明日もまた来なくなる学校づくり」により、不適応児童が大きく減少した。そして、教職員の時間外在校時間も大きく減少した。一番のポイントは「笑顔」である。教師が楽しそうにしていれば、子供たちも楽しくなる。まさに、「笑顔の教師が笑顔の子供を育てる」のである。それがまた、「明日もまた来なくなる学校」でもある。



児童による自発的なあいさつ運動

児童が笑顔で 夢を育む学校づくり

日立・豊浦小 石川 尚子

一 はじめに

本校は、日立市の北部に位置し、東に太平洋、西に阿武隈山系を望む、自然豊かな場所にある。創立一四八年を迎えた歴史と伝統のある学校である。校庭には初代校長の銅像があり、子供たちの成長を日々見守ってくれている。

この四月に、新校舎が完成し、子供たちが伸び伸びと生活し、自ら学び、仲間と楽しく交流できる環境も整っている。

二 めざす学校像

全校児童は四八五名で、明るく素直で、活発に活動している。今年度は、学校経営のキーワードを「豊小大好き 笑顔いっぱい 夢いっぱい」とした。これは、学校が、子供たちの心の居場所となり、毎日楽しく生活してほしいという願いを込めている。そのために、保護者・地域の方々と連携して、よりよい学校づくりに取り組んでいる。

三 地域とともにある学校

日立市では、本年度より、学校運営協議会を各学校に設置し、学校と地域がともに

「育てたい子供の姿」の実現に向けて必要な支援を協議している。

本校も、一〇名の委員のもと、地域の未来を担う子供たちのために、学校と地域がビジョンを共有し、地域全体で教育活動を支援する体制が整った。

今年度は、主に学習支援と環境整備の二点にしばって取り組むこととした。活動の始めとして、六年生が国道六号沿いの花壇に、花の苗を植える「花いっぱい運動」に参加した。地域の

方々とかかわり合いながら活動する子供たちは、最初はぎこちなかった植え方も、こつを教えてもらうとすぐに手際が良くなり、活動を楽しみながら笑顔も溢れるようになった。活動後の感想からは、ふるさと豊浦のよさや、人とのふれ合いの温かさを実感できたことが伝わった。

その後も、コロナ禍ではあるが、生活科や総合的な学習の時間において、地域の人的・物的教育資源を生かしながらの活動を推進している。今後は、学校運営協議会の機能を活性化させながら、カリ

キュラムマネジメントにより、子供たちの健やかな成長と質の高い教育の実現に向けて、地域人材の協力を拡充したいと考えている。

四 論理的思考力を育むプログラミング教育の推進

校内の研究テーマを「論理的思考力を育む学習指導の在り方―各教科におけるプログラミング教育の実践を通して―」とし、変化が激しい時代でも、子供たちが自分の人生を切り拓いて行けるようにするために必要な資質・能力を育みたいと考え、授業改善に取り組んでいる。

一人一台のタブレット端末が整備された現在、ICTの活用状況は、授業での資料提示や、学習の中で、子供たちがタブレットを使い情報検索をしたり、プレゼンテー



「花いっぱい運動」の活動

ションを作成したりしている現状である。

そのような中、具体的な授業実践の一つ目として、総合的な学習の時間に、ロボットを動かす活動により、問題解決や、プログラミング的思考を育成している。子供たちの興味・関心は高く、目を輝かせて取り組んでいる。友達と協働し、目標に向けて試行錯誤する中で、話合いも活発になってきている。二つ目は、教科のねらいを達成するために、プログラミング的思考を活用する授業である。これまでの授業とは異なり、順序や、

笑顔輝く

「須田っ子」

の育成

神栖・須田小 二重作 洋夫

一 はじめに

神栖市の南に位置する須田小学校は、若松の緑のゆりかごに包まれ、真っ白な風車が回る自然豊かな場所にあり、須田地区のよき伝統が脈々と受け継がれる地域との連携・協働を強みとした学校である。地域とともにある「須田校」は、今年度創立一四六年目を迎える。

二 めざす学校・児童の姿

本校は、児童数二二九名、職員数二九名の中規模校である。

条件分岐等の考え方に着目して授業を再構成している。指導案を作成する段階では、難しいこともあるが、授業を全職員で相互参観し、協議することで、これからの時代に求められている力について共通理解することができている。

五 むすびに

子供たちが、笑顔で学校生活を送りながら夢を育めるよう、保護者・地域の方々、そして、子供たちのために日々がんばっている教職員と共に「チーム豊浦」として一丸となり、学校経営に全力を尽くしたい。

教育目標は、「夢に向かってたくましくともに伸びる須田っ子の育成」であり、自分を見つめ、なりたい自分を描きつつ、夢や目標に向かって、たくましい心と身体で取り組み、共に高め合い伸びていく子供たちを育てていきたいと考えている。今年度は、①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の展開②児童自らが絆を紡ぐ特別活動の展開③児童一人一人のよさを引き出し、可能性を伸ば



Small talk 笑顔で伝え合う

楽しむ児童が増えている。

外国語科、外国語活動の授業を行うに当たって次のことに重点を置いている。

低・中学年では、英語に慣れ親しむ活動の充実を図る。

- ・目的を明確にしたゲームの工夫
 - ・チャンツの重視
 - ・リアクションの指導
 - ・ファイルへの学習内容の蓄積
- 高学年では、伝え合うことの楽しさを味わわせる活動の充実を図る。

- ・課題設定の工夫
- ・ペア・グループ活動の充実
- ・オーブンエンドを目指すスモールトークの充実
- ・パフォーマンステストによる定着度の確認

これらの活動を通し、慣れ親しむ活動から、伝え合う楽しさを味わわせる活動へのスムーズな接続を目指す取り組みをしている。

特にスモールトークの充実を

図り、児童一人一人が、自分の思いや考えを伝える場面を大切にしてきた。また、各学年での目標を設定してきた。(第六学年では児童同士で二分間のやり取りをする)この目標達成に向けて現在取り組みんでいるのは、①単元導入時に、伝えたい言葉は英語ではどんな表現になるのかALLTに質問する時間を確保すること②スモールトークでは、

中間指導の時間を確保し、悩む児童に個別にアドバイスを送ること③リフレクションの時間を大切にし、次の時間に繋げることである。

「児童のキャリア形成を目指した

学校づくり」

稲敷・あずま北小 大谷 次男

一 はじめに
本校は、霞ヶ浦の南部に位置する稲敷市の南東部に立地し、田園風景が広がる自然豊かな地区である。本校の北側にある「大日山」古くは湧き水からできたと言われている「鏡池」は、学校のシンボルとして地域の方々よりも思い入れのある場所である。

ではあるが、教職員がチーム一丸となつて取り組んでいる。

三 本校の特色ある取組

(一)一人一台端末の活用

「GIGAスクール構想」の一つとして推進されている一人一台端末の支給を、本市ではいち早く取り入れ授業での活用を図っている。ICTサポーターの指導を受けながらも「習うより慣れよ」の発想で、一日の中で二回以上はタブレットを活用した授業に取り組んでいる。教職員同士が使い方の情報交換をしながら、アナログとデジタルのバランスの良い併用を図り児童の主體的な学びにつなげている。

長期休業中においても、個別最適な学びの実現のためにタブレットの家庭への持ち帰りを実施している。学校からの宿題だけでなく、自分の興味・関心に応じた学びが実現

するように、家庭での使用についての注意事項を確認した上で、各自が選択した課題を解決できるようにしている。

(二)キャリア形成を目指した授業改善

学校組織目標にもある「学ぶ意義、身につけた力を実感できる授業づくり」を実現するために、茨城県教育研修センターの教育研究に関する事業に委嘱を受け、今年度からキャリア教育の研究を進めている。まずは、特別活動におけるキャリア教育で育成すべき力である「基礎的・汎用的能力」をしつかり意識した活動になるよう研修を進めている。それを、全教育活動で展開できることを目指している。今年度は、自己実現の場の設定、教育活動全体でのキャリア形成を意識した授業改善、キャリアパスポートの有効活用を図っているところである。

(三)地域とともにある学校

コロナ禍における来校者の制限から、今年度は新型コロナウイルス対策を実施した上での、地域とともにある教育活動が再開されている。学校サポーターを活用した「学校花壇の整備」「野菜の栽培の助言指導」「収穫祭への協力」などの協力をいただいている。こ

す指導の実現の三点に力を入れ、組織目標である『子どものやる気を引き出し、力にかえる』ことに、取り組んでいきたいと考えている。

三 本校の特色ある主な取組

外国語に慣れ親しみ、自分の考えや気持ちを伝え合おうとする児童の育成。

始めに取り組んだことは、ALTT主導の授業から担任主導の授業への転換である。ALTTとの打合せ時間の設定、打合せシートの活用等を通し、ALTTとコミュニケーションを十分に取ることができた。そのため、担任主導の授業へと変わってきた。それに伴い、児童の外国語に対する不安感が減り、笑顔のあふれる授業へと変化してきている。また、他の教科と同様に、間違っても大丈夫という学級の雰囲気が生かされ、授業を

れにより、地域と共に成長する体制が築かれることを期待している。

また、まだ制限を強いられる保護者との活動においても、授業参観の方法の工夫や学校HPによる頻度の高い発信により、学校や児童のようすがわかるように努めている。児童には、学校の課題である「あいさつ」を地域にも届けていくことを式辞や職員会議等で継続して伝達している。

四 おわりに

私自身本校に約十五年前教諭として勤務した経験があるが、学校を取り巻く環境も大きく変容してきたように思える。しかしながら、一番大切なものは、児童一人一人を大切にし、地域の良さを生かした学校経営をすることだと考える。児童の望ましいキャリア形成を図るために教職員が同じベクトルをもち、尽力していきたい。



オンライン授業

夜間中学二年目の挑戦

— 全ての生徒にとって 価値のある学校を目指して —

常総・水海道中 服部 仁一

一 はじめに

本校は一級河川の鬼怒川にほど近く、その水運で栄えた水海道市街を擁する水海道小学校学区と、広大な田園地帯を持つ大生小学校学区からなる創立六二年の歴史と伝統ある学校である。

令和三年の昼の部の生徒数は三三一名、学級数は十三（内特別支援学級三）である。更に、令和二年四月に「夜間学級」が開設され、令和三年度は生徒二八名が在籍し三学級が増えた。これにより、全校生徒数は三五九名となっている。

二 夜間学級開設の経緯

常総市では、増加する外国籍住民や、全国的に増加している不登校生徒の教育機会確保を目的として、平成三十一年二月議会において茨城県内初の夜間学級の設置を決定した。

平成三十一年四月に水海道中学校に教頭一名、教諭一名を配置して夜間学級準備室を設置。一年間の準備期間を経て、令和二年四月に教員十二名が配置さ

れ、生徒二〇名を迎えて水海道中学校夜間学級が開設された。

三 夜間学級の概要

令和三年度、夜間学級には二八名の生徒が在籍している。国籍は、日本八名、ブラジル七名、ペルー、フィリピン、アフガニスタン、パキスタンが各二名、ネパール、バングラデシユ、中国、イラク、ベトナム

が各一名となっている。年齢は十五歳から七十五歳までが在籍しており、子供から大人、そしてお年寄りが一つの教室で机を並べて学んでいる。生徒の入学までの就学歴は多種多様であり、小学校に通った経験がない生徒もいれば、母国の中学校の義務教育課程を途中で履修した生徒もいる。

教員は昼夜兼任の校長の他、夜間専任として副校長一名、教諭五名、常勤講師四名、養護助教諭一名、非常勤講師六名が配置されている。茨城県の配慮により手厚い職員配置をしていたいており、全てが県費負担教職員である。

授業は月曜から金曜までの週五日間、一日あたり四時間となる。夜間学級は学校教育法で特別の教育課程が認められているため、年間授業数は七〇〇時間である。各教科とも昼の中学校と同じ教科書を使用して授業を行っているため、年間指導計画を再編成し、三年間で中学校の全ての課程を学べるようにしている。また、外国籍の生徒で日本語の理解が不十分な生徒に対しては、教科の理解を助けるための日本語指導を、週八時間程度取り出しで行っている。

四 夜間学級における教育活動

夜間学級は生徒が自ら学びを求めて入学する学校であるため、生徒の学習意欲は非常に高い。しかしそれは、裏を返せば、生徒が学校の授業に価値を感じなければいつでも辞めていく可能性があるということである。そういった意味で、一日一日の授業に対する教員の責任は重い。

そのような状況で中学校課程の内容を指導するため、入念な教材研究が不可欠である。外国籍で日本語の理解が不十分な生徒もいるため、全ての教科でICTを活用し、視覚に訴えたユニバーサルデザインの授業を行っている。

個人差に対応するためには、

充実した職員数を生かして一つの教室に三、四人の教員を配置している。また、仕事の残業などによる欠席で抜けた内容を指導するために、取り出しによる個別指導も頻繁に行われている。

そのほか、不登校を経験した日本人生徒も多数在籍しているため、心のケアの面にも十分な配慮が必要である。そのため、年間五回の個別面談を行って生徒の悩みを聞き、それに応じて常に指導体制を見直している。

このように、個々の生徒のニーズに全て答え、一人も置き去りにしないことが夜間学級には求められる。動き出したばかりの夜間学級ではあるが、これからも全ての生徒にとって価値のある学校を目指して、さらなる充実を目指していきたい。



社会科の授業

特集 2

行財政・調査研究
委員会の要望や取組令和四年度「教育行政に関する
要望」——その経過と概要——

行財政委員長 海野 隆

小・中学校ともに新学習指導要領等が全面実施され、さらに中教審答申で、「令和の日本型学校教育」の構築が示されました。学校では、新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながらの生活、一人一台端末の効果的な活用が喫緊の課題となつています。さらに、働き方改革の推進や個別の配慮が必要な児童生徒の対応など課題が山積しています。

そのような中、令和四年度の教育行政への要望書を作成するに当たりアンケート調査を実施したところ、全小・中・義務教育学校の回答を得ることができました。会員の皆様、各校の代表教諭の皆様のご協力に心からお礼申し上げます。

作成しました要望書は、本年度は緊急事態宣言発令に伴い、県教育委員会教育長へ直接手渡すのではなく、送付での提出となりました。

要望の概要は以下の通りです。詳細は会員へデータで配付された要望書をご覧ください。

Ⅰ 国への要望

○義務教育標準法の改正による教職員定数の改善

○多様な教育課題に対応するための加配定数の増

○中学校・義務教育学校の『三五人学級』の早期実現と教員定数の拡充

Ⅱ 県への要望

一 全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びのために

(一) 少人数学級並びに少人数指導にかかわること

① 「楽しく学ぶ学級づくり事業（小四・六）」の継続

② 「中学校生活充実支援事業（中一・二）」の継続

③ 少人数教育充実プラン推進事業の実施基準の緩和

④ 特別支援教育コーディネーター加配の拡充

(二) ICT活用にかかわること

① 教職員のICT活用スキルの向上に向けた研修等の充実

② 一人一台端末を活用した効果的な学習方法の情報共有

③ 小学校におけるプログラミング教育に関する研修の充実

二 学校組織の充実と活性化を図るために

(一) 新規採用にかかわること

的な確保と教員志願者を増やす取組の工夫

② 優秀な人材を確保するための採用方法の工夫

(二) 人事による活性化にかかわること

① 加配教員の配置の充実及び会計年度任用職員（非常勤）の活用方法の見直し

② 小学校専科教員配置に係る条件の緩和

③ 専門的・補助的スタッフの配置の拡充

④ 欠員の解消のための殊遇改善

(三) 教職員の育成にかかわること

① 若手教員研修制度の見直し

② 特別支援免許状の取得の促進（認定講習受講希望者の受け入れ拡充等）

三 充実した教職生活の実現のために

(一) 教職員の働き方改革の推進と健康管理に関わること

① 働き方改革にかかわる県教委と県学校長会との協働体制の確立

② 教員の持ち時間数縮減のための人的支援

③ 部活動適正化と地域移行へのガイドラインの作成（以下略）

(二) 定年延長にかかわること

① 教職員の職務の特殊性を考慮した勤務・給与体制の構築

② 管理職の延長制度等の構築

四 本県教育の一層の充実・発展を図るための市町村当局への助言について

(一) 業務の効率化に対する理解と協力

(二) 特色ある学校づくり推進のための予算措置

(三) 感染症対策に伴う予算措置

(四) 特別支援教育支援員配置促進のための予算の適性化等

(五) 学校の危機管理に対応するための専門家（弁護士等）の積極的活用

(六) 部活動の自治体・団体主催大会等の縮減

調査研究委員会の取組

調査研究委員長 浅川 晃

Ⅰ 活動のねらい

学校教育における現状や直面している課題等の調査を通して、県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供するとともに、各

学校の特色ある教育活動推進の一助とする。

Ⅱ 具体的な活動と進捗状況

三つの部会を組織して、次の四つの活動を行っている。

一 今日の課題に関する調査と

特別寄稿



十年先、二十年先を生き抜く力

北茨城市教育委員会教育長 豊田 健司

今、コロナ禍で様々な教育活動の見直しがされていますが、校長先生を中心に、手段が目的化していったのではないかと、前例踏襲にとらわれていたのではないかとという視点から「学校の当たり前」を見直す取組が各学校で始まり、今学校は大きく変わろうとしています。まさに、「かわいそ

うなコロナ時代の学校」ではなく、「コロナで良くなった学校」を目指した学校の挑戦が始まったと考えています。この挑戦が、これからも続くことを願っています。

本市の子どもたちと市民が、自然や歴史・文化に恵まれた郷土への愛着と誇りをもち、自立しながらも地域の絆を大切にして、共に力強く生きる力を身に付けられるよう、本市の教育を推進してまいります。

十年先、二十年先は、「自分の道は自分で決める」という能動的な発想や行動力が必要とされる時代になると考えています。教育の目的は、子どもたちが将来、社会の中でよりよく生きていける力を育むことです。学校がやるべきことは、自ら考え、判断し、決定し、自ら行動できる、つまり自律する力を身に付けさせることであり、学校には十年先、二十年先を見据え、生き抜く力を保障する責任があります。先生が教えやすいからとか、こうして今まで教えてきたからという考え方を一旦留保し、これからの時代の子どもたちはどうあるべきか

考えたときです。そして、児童生徒一人一人が未来の創り手となるためには、学び続ける力」「新しい価値を創造する力」「社会で自立できる力」の三つの資質・能力を育む必要があります。そのためには、児童生徒のもっている可能性を心から信じるとともに、多様な児童生徒が共に認め合い、学び合う学校でなければなりません。

変革の時代、学校教育にも正解はありません。このような時代にあつて、生涯学び続け、どんな環境においても、答えのない問題に対して決してあきらめることなく、多様な人とかかわり、コミュニケーションを取りながらよりよい解決策を見いだす力を育むことが教育に求められます。誰かの言うことを聞いていればよかった時代は終わりました。

研究(第一部会)

(一) 第3期中期教育ビジョンで目指している実効性のある「働き方改革」の実現に向けて、各学校内の体制づくりや取組、教員の勤務に対する意識等に関する調査を全小・中・義務教育学校の学校長と抽出校の教諭を対象に実施する。その調査結果を分析して、働き方改革の実現に向けて、今後の各校長会や各学校の取組への一助とする。

(二) 進捗状況

・ 九月 調査依頼
・ 十月 集約
・ 十一月 集計・考察

二 特色ある教育活動に関する調査(第二部会)

(一) 各小・中・義務教育学校の研究・研修の充実発展に資することを目的に調査を実施し、結果を県学校長会webページに掲載する。

(二) 進捗状況

・ 六月 調査依頼
・ 七月 集約
・ 八月 集計・webページ作成
・ 九月 webページ掲載

三 勤務実態(時間外勤務時間)に関する調査(第三部会)

(一) 全ての公立小・中・義務教育・特別支援学校を対象に超過勤務時間等を調査する。

(二) 進捗状況

・ 九月 調査依頼

・ 十月 調査

・ 十一月 集計・考察
四 全連小・全日中の調査及び編集等への協力

(一) 全連小各種委員会の調査協力
次の八つの調査について、各ブロック毎に分担しながら実施する。

・ 八月 調査依頼
・ 九月 集約・送付

【調査内容】

・ 教職員定数改善
・ 教育環境整備
・ 教育課題
・ 健全育成
・ 小学校における教員の養成・育成
・ 教育課程
・ 特別支援教育

(二) 全日中「全国中学研究校便覧」の掲載校を各ブロック毎に一校ずつ推薦する。

掲載校は次の五校

・ 水戸市立第五中学校
・ 北茨城市立中郷中学校
・ 潮来市立潮来第二中学校
・ 守谷市立守谷中学校
・ 古河市立総和北中学校

推薦にあたっては、第二部会の特色ある教育活動に関する調査等を参考にする。

※校務ご多用のところとは存じますが、引き続き各種調査への協力をお願いいたします。

経営研究

創意工夫を生かした
特色ある教育課程

小中一貫校のよさを生かした

教育活動の展開

小美玉・玉里学園義務 吉永 成範

本校は、四月に小学校三校と中学校一校が統合し、市内初の義務教育学校として開校した。

前期課程児童三四一名、後期課程生徒一七九名が一つの校舎で学校生活を送っている。開校してまだ日が浅いが、小中一貫校のよさを生かした教育活動を進めている。

一 特色ある取組

(一) 学び合い・教科担任制

「玉里スタイル」として、九年間を貫く学習スタイルを設定している。学習の決まりや学習の進め方、学び合いの仕方を小中共通で指導し、後期課程へ進級しても迷うことなく、落ち着いて学習に取り組めるようにしている。

また、小中教員の相互乗り入れ指導を進め、今年度は、三年生から算数・理科・英語を中心に一部教科担任制を、五年生からは完全教科担任制を導



玉里スタイル「学び合い」

入している。前期課程から、専門性に根ざした質の高い授業を行うことにより、学力や学習意欲の向上を目指している。

(二) 郷土学習

「玉里学」として、地域に親しむ・地域を知る・地域を見つめる・地域に貢献する郷土学習を、一年生から九年生まで系統的に行っている。学習活動では、市の生涯学習課や市社会福祉協議会、幼児教育施設等との連携を図り、地

域の人々との交流の機会を積極的に位置付けている。郷土愛とともに、人としての生き方を学べるようにしている。

(三) 外国語（英語）

後期課程の英語教師が前期課程の外国語や外国語活動の授業を担当するとともに、外国語指導助手（ALT）が二名常駐して指導に当たり、英語の授業の充実を図っている。

また、「English Day」として英語を多く使う日を設定し、朝の「English Time」でALTが小学生とゲームをしたり、お昼の放送で中学生が簡単な英語で話をしたりして、英語に触れる機会を増やしている。

(四) 異学年交流

夢を描き自立的・探究的な活動ができる生徒の
育成を目指して「さわやか常北」を合言葉として

北茨城・常北中 川和 雅人

一 はじめに

本校は、北茨城市の北部太平洋側に位置し、生徒数二〇三名、学級数九学級（含特別支援学級三）の小規模校である。伝統的に部活動が盛んで、生徒一人一人が自分の夢の実現に向かって、互いに切磋琢磨しながら元

小中学生が一緒に遊ぶ縦割り班活動を設定し、遊びを通して幅広い人間関係が作れるようにしている。また、日常的に小中学生が一緒に遊ぶことができるように、昼休みの時間をそろえている。

二 成果と課題

教師は、前期課程・後期課程の枠を越え、指導の一貫性・継続性や学習の系統性・連続性を意識するようになってきた。一方、子供たちは、多くの教師と関わりをもち、地域の方と交流し、児童生徒相互の交流も進んでいる。

また開校一年目であり、十分な体制とは言えない。今後、取組の改善を図りながら、より効果的な教育活動を展開していきたい。

氣に学校生活を送っている。

学区内には、古来より漁業・海運業で栄えた港や、旧陸前浜街道の宿場町の名残があり、自然と歴史が豊かに融合した情景が広がっている。また、岡倉天心・横山大観に代表される文化の香り漂う地域でもある。

今年度は、学校経営における重点目標を『夢を描き自立的・探究的な活動ができる生徒の育成』とし、全教育活動を通して推進しているところである。

二 合言葉による目標の共有

本校では、ここ数年来「さわやか常北」を合言葉に据えて、目指す生徒像にせまる取組を進めてきた。合言葉の効能としては、「ねらいが簡潔に理解できる」「共有化が図りやすい」等がある。合言葉のそれぞれの意味は、次のとおりである。

① 時と場、状況に応じたさわやかなあいさつができる

② 和を尊び、自分の役割を生かして自己肯定感を高める

③ やる氣と探究心をもち、自分の夢の実現に向けて取り組む

④ 感謝の心で無言清掃やボランティア活動に取り組む

三 知育における探究的活動

(一) 「常北スタイル」の実践

新学習指導要領の趣旨に則り、今年度は特に、「振り返り」の充実を図り、自己の学びの調整及び次の学びへの接続につなげている。

(二) タブレット端末の活用

年度早期から、授業において端末の導入を進め、問題解決的な学習過程での調べ学習

や意見交流等に積極的に活用している。

四 德育における探究的活動

(一)道徳科のマネジメント

ルーブリックを活用した学習評価や、学年内ローテーション授業等を通して、生徒の道徳的実践意欲等の向上を図っている。

(二)自治的能力を育む特別活動の実践

「深めよう探究的な活動」は、生徒会自らが設定した活動テーマである。活動例としては、生徒の意見を直接学校生活に反映させる目安箱を設置するなど、生徒が主体となるよりよい学校づくりに取り組んでいる。

五 体育における探究的活動

本校の課題であるう歯予防等を推進する目的で、「健康通知表」を活用したヘルスプロモーション



朝のボランティア活動

ションの視点で、生徒自らの健康増進に努めている。

六 おわりに

「取手市新しい学校教育三つの取組」を生かした教育活動の展開

取手・藤代南中 黒羽 勉

取手市では、令和二年度から全小中学校において「取手市新しい学校教育三つの取組」として①全員担任制（中学校）・チーム指導（小学校）、②教育相談部会システム、③二学期制の三つに取り組んでおり、本校でもこれらの長所を生かした教育活動を行っている。

一 特色ある取組

(一)全員担任制

全員担任制は、学年担当教員が一定の期間で交代しながら学級担任をするというものである。本校は各学年四クラスあるので、一週間ごとにローテーションで担任が交代していく。担任が代わっていくことで、より多くの目で生徒を見守り、小さなサインや変化を見逃さず、すぐに支援をするようにしている。また、中学校なので二者面談や三者面談を定期的に行っているが、面談をする先生を生徒

今後、開かれた学校づくりの中で、生徒一人一人の夢の実現のために努めていきたい。

が学年の先生の中から自由に選ぶことができる。こうすることで生徒が相談しやすい雰囲気を作り、より充実した面談ができるようにしている。

(二)教育相談部会システム

取手市では、いじめや不登校の問題を解決するために、教育相談にも力を入れていく。本校でも生徒に対し「教育相談は、皆さんの悩みや学校生活の困りごとについて先生たちが話を聞き、相談にのり、一緒に考えていくための窓口です。」と案内し、いつでも、どの先生に相談してもよいことにしている。そして相談された内容は、毎週水曜日の教育相談部会で必ず取り上げ、共通理解を図っている。教育相談部会には、管理職に加えて県のスクールカウンセラーや市教育センターのスーパーバイザーが出席してくれており、専門家としての視点

からアドバイスをいただけるので、非常に助かっている。

(三)二学期制

今年度は、四月一日から十月第二月曜日までを一学期。十月第二月曜日の翌日から三月三十一日を二学期としている。二学期制になったことで、学期ごとにあつた行事を削減



教育相談部会の様子

し、生徒は学習や学校生活、部活動などにじっくりと取り組むことができるようになった。教師としても、成績処理や通知表作成が二回になったことで、生徒と関わる時間を十分に確保することができ、働き方改革にもなっている。

二 成果と課題

学力の向上やいじめ問題の解決、不登校の解消など、学校が抱える多くの課題を組織の力で解決していくと、市全体で「三つの取組」が始まった。今後は、さらに教師一人一人の指導力の向上や小中連携を進め、生徒が安心してのびのびと生活できる、活力ある学校づくりを推進していきたい。

生徒主体で考え、行動する

「学校スローガン『ゆう&あい』」

結城・結城中 渡辺 信之

本校は、結城市の北部に位置し、三つの小学校区をもつ生徒数六七三名の大規模校である。

「進んで学習し 心豊かな

たくましい生徒を育てる」の学校教育目標の下、学校スローガンを「ゆう&あい」と掲げ、地域の方々や保護者の方々のご支援をいただきながら、生徒、教

職員一体となつて日々の教育活動を展開している。

一 特色ある取組

「ゆう&あい」には、以下の三つの意味がある。

「YOU&I」あなたとわたし

「勇&瞳」勇気と澄んだ瞳

「結&愛」結城を愛す

このスローガン「ゆう&あい」

課 題



部活動改革

県学校長会副会長 安藤 光弘
(神栖・神栖四中)

令和三年度は総合体育大会、吹奏楽コンクール等が新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら大きな混乱なく実施できました。生徒たちが目を輝かせプレーする姿に触れ、部活動が生徒の成長に大きくかわる活動であると、改めて存在の意義を実感できました。大会運営に尽力された中体連、各競技部、各校顧問の先生方に感謝を申し上げます。

経験が無い教師には多大な負担となっているとし、持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要としています。

長時間勤務については、どの学校も学校のおかれた環境を踏まえ、検討を重ね複数顧問制、平日の活動日の削減など、改革が進められていることを耳にします。時間外勤務削減の手段の一つとして将来的に休日の部活動の段階的な地域移行が文科省から示されました。学校の地域性もあり、担い手、受け皿、事故に対する補償、報酬等解決すべき課題は多いです。モデル校の実践を参考にしながら各学校の実態、地域性を踏まえて地域移行に向けての準備が必要です。

県部活動運営方針では、部活動は学校教育の一環として実施する活動であり、生徒にとって豊かな学校生活を体験する有意義な活動であると共に、体力の向上や健康の増進、豊かな心や創造性の涵養においても極めて効果的な活動であるとしています。しかし、運営に当たっては時間外勤務、専門ではない教師にとつての負担、生徒数減少による再編など課題があります。文科省は、部活動は生徒にとつて教育的意義の高い活動である一方、教師の献身的な勤務に支えられており、長時間勤務の要因であることや、特に指導

くりの一つと考えます。

生徒数減少に伴う部活動の再編も課題です。今後の生徒数の推移を把握し、部員数、教員配置数の減少を見越し、計画的に部活動の再編を保護者の理解を求めながら進めていかなければならない時期は迫っています。しかし、働き方改革だけに目が行きがちですが、再編のために生徒の可能性の芽を摘むことが無いよう、地域の特性を生かし合同部活動等も推進していくことも必要です。また、生涯体育を考えた場合、試合に出られないから部活動として減らすことばかりでは無く、運動の機会を提供する部活動の考えも求められてくると思います。

いずれにせよ部活動運営は今後学校だけで行うものではなく、保護者、地域の協力が必要となつてきます。そのために校長としては関係者との連携を図りながら見通しをもつての取組が求められます。そして、持続可能な部活動であるための指導・運営に係る体制の構築のためには関係者の新たな部活動に向けての意識改革が不可欠であり、その際、地方自治体、学校関係者がそれぞれの役割を果たすことにより、部活動改革が結実するものと考えます。

を生徒会が主体となり、各委員会活動でどう行動し具現化するか、各学級でどう具体化し実現していくかを生徒総会場で話し合いをした。

新型コロナウイルス感染症の予防の視点から、今年度は校内オンラインでの実施を試みたが、各教室を「Teams」(チームズ)でつなぎ、活発な話し合いが展開された。

生徒会本部からは、生徒会スローガンとして、「一歩前進(一人一人の輝く個性を紡ぎ挑戦への一歩を踏み出そう)」の下、本校の現状と課題を提示した上で、

「YOU&I」

凡事徹底・生徒主体・交通安全

「勇&瞳」

いじめゼロ・交流活動・お互いの良さの認め合い

「結&愛」

ボランティア活動・小中学校との連携・地域への情報発信が提案され、各学級、各委員会からの具体的な行動目標が紹介された。

学校教育目標や学校スローガンが、教職員だけのものではなく、生徒とともに学校全体で共有できたこと、また、学級や委員会ですぐに生徒たちと先生方

の手によって行動目標として具体化されたことは、大きな価値があると思っている。学校内のそこで、目標の一つ一つが具現化され達成されていくことを願っている。

二 成果と課題

成果としては、各学級の目標や各委員会の活動計画がスローガンの下に生徒主体で具体化されたことで、生徒自身の振り返りの視点が明確になったことがあげられる。それは、各学級経営や各委員会の運営についても、先生方の効果的な支援に結び付いている。

課題としては、まだまだ先の見えない新型コロナウイルス感染症下、「三密」を避けるなど、制約のある中で、あくまでも生徒を主体とし、どう組織を動かしていくか、ICTの効果的活用を含め、様々な展開を模索していくことが求められる。



オンラインでの生徒総会

市町村教育委員会と学校長会

西 県

「魅力ある学校づくり」を基盤とした
教育委員会との連携

坂東・中川小
飯田 政子

坂東市学校長会は小学校一三校、中学校四校の計一七校で構成されている。令和三年度の坂東市の教育運営方針は、「非常時ににおける『魅力ある学校づくり』教育の『質』に挑む学校運営を目指して」である。

毎月一回の定例会・研修を開催し、教育課題解決のための協議や研修、各校の取組について情報交換を行っている。そして、教育長、指導課長からその時々々の市の教育課題について講話や助言等をいただき、学校現場での対応に校長会が丸となって取り組んでいる。

「一人一人を大切にしたい」魅力ある学校づくりを第一の研修課題とし、本市の事業を生かして教育委員会と緊密に連携しながら、次のような施策や取組を実施している。

一 坂東市魅力ある学校づくり推進事業

各中学校区ごとに、事業推進のための組織として、学校生活上推進部会、授業改善推進部会、小小・小中連携部会を設け、協議や研修を通して共通理解を図る。また、市全体で各中学校区の取組を共有する。

義務教育九年間の連続性を重視した取組により、児童生徒が「学校が楽しい」、「みんなと何かをするのは楽しい」、「授業に主体的に取り組んでいる」、「授業がよく分かる」と感じることができるよう「居場所づくり」と「絆づくり」を推進する。

二 自ら学び自ら考える力を育む教育活動の推進

質の高い学びの実現に向けて、学校の現状と課題を的確に把握し、要因分析に学校全体で取り組む。そして、教員の授業力向上のための手立てを考え、学校としての組織づくりをする。授業改善のための校内研修を組織を生かして、計画的に実施する。

三 豊かな心と健やかな体を育む学校経営の推進

感染症防止対策を徹底すると同時に、各関係機関と連携した交通安全、防犯、熱中症等から

命を守る行動の習慣化を目指す。また、坂東市五つの約束（挨拶、返事、姿勢、靴を揃える、時間を守る）を継続して市全体で指導する。

四 GIGAスクール構想等社会の変化に対応できる学校経営の推進

オンラインでの児童生徒の学習力の育成を目指し、一人一台端末の効果的な活用法を共通理解し、計画的に職員の研修を実施する。

五 働き方改革の推進による職場環境改善と教育の質の向上

学校長会と教育委員会とが連携し、「留守番電話機能の設置」や「給食費の公会計化」等、働き方改革を進めている。

今後、双方が連携して、「一人一人を大切にしたい」魅力ある学校づくりに取り組んでいく。

中 央

常陸大宮市教育委員会との連携

常陸大宮・大賀小
関 美智子

常陸大宮市学校長会は、小学校十一校、中学校四校の計一五

校で組織されており、市教育委員会と密接な連携を図りながら、本市の教育目標である「かしこさ」「たくましさ」「思いやりのある心」のバランスのとれた児童生徒の育成と円滑な学校経営に努めている。

一 定例会・学校経営研修会

毎月一回、定例研修会を開催し、市教育長、教育部長、担当諸課長、指導室長からの指示伝達のほか、関係諸機関から市の施策等に関する情報を提供していただき、市教育委員会と一体となって研修や課題解決に努めている。

また、年二回の学校経営研修会を実施している。今年度は「確かな学力を育むための学校経営―学びの質を重視した特色ある学校づくりを通して―」という

研修テーマを設定し、学びの質を重視した授業改善等を通して確かな学力を育んでいくとともに、特色ある学校づくりにつながる学校経営の実践に向け研修会を実施する。

二 教職員の質向上

学校管理運営研修会として、夏季休業を利用して、校長・教頭・教務主任の三者による提案発表と研究協議を行っている。（今年度は文書発表及び教頭会・教務主任会での研修）

また、市教育委員会と連携し夏季休業中にミドルリーダー育

成を兼ねて、市小中学校長等研修会を実施している。内容は講師を招聘した講演会である。市内各小中学校の校長・教頭・教務主任・ミドルリーダーが参加する。（今年度はコロナウイルス感染症予防対応のため中止）

三 授業力向上

常陸大宮市教育大綱にある「郷育立市」を推進するため、「郷土でも輝くことのできる人づくり」をキーワードに、市教育委員会と連携した事業を展開している。特に教員の授業力向上に力を入れており、常陸大宮市の友好都市である秋田県大館市との教職員交流事業や、筑波大付属小中学校との連携による教職員スキルアップ推進事業を実施している。

四 働き方改革の推進

働き方改革の推進に向けて市が設置している常陸大宮市立小中学校働き方改革推進委員会に六名の校長が委員として参加している。また、三つの部会（体制整備・意識改革・教育課程部会、部活動・外部人材部会、学校業務削減部会）にも二名ずつの校長・教頭代表が入り、各学校で実践している取組を共有するとともに、更なる業務の見直し及び業務削減について協議する。市教育委員会と連携してより一層の働き方改革の推進に取り組んでいるところである。

梅のかおり

—先輩校長から—



我々の教育力に自信をもって

前・ひたちなか市長
勝田第一中学校長
稲田 樹男

今年三月末日をもって三七年間の教員生活を終えることができました。ひとえに皆様方の支えがあったからだと思ひ感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

四月からは幼稚園の園長というまったく新しい世界を与えていただき心身に新たな力が湧いてくる日々です。日々、園児たちの「学びの芽生え」を感じ、伸ばす、育てる大切さを実感しています。

さて、コロナ禍のために一年間延期されたオリンピックが開催されました。感染拡大を不安視するなかでしたが、日本人選手活躍に大いに感動しました。そこには、持てる力を出し

切つて勝利を勝ち取るたくましい若者たちがたくさんいました。これはこれまでの学校教育の成果だと私は思いました。

我々は、素晴らしい日本人を育ててきたのだと自負してもよいのではないのでしょうか。

また、八月に本県で開催されたソフトテニスの関東大会を見に行きました。後輩たちが立派に大会を運営している姿を見て、力強さを感じました。

しかしながら、学校現場はコロナ対策を徹底しながら、英語教育、ICT活用、働き方改革にともなう部活動の考え方の変化など大変な状況だと思ひます。このような状況下では、リーダーたる校長の力が大いに求められます。時代に合わせながらも人と人との関わりの中で人を育てるところに教師の喜びはあるという信念をもって取り組んでいってほしいと思ひます。

健康で楽しく

前・常陸大宮市長
大宮小学校長
小池 浩一

定年退職。なんとも言えない開放感を味わいました。大過なく職務を全うできました。これまでお世話になった多くの方々

に感謝します。

さて、コロナ禍により開催が危ぶまれた東京オリンピックでしたが、大きな感動を残して閉幕を迎えることができました。五輪開催には難題が山積していましたが、ボイコット論、観客をどうするか、開会式はできるのか、大会途中で中止、猛暑や台風の影響による被害予想など、開催に否定的だった世論も、ひたむきに競技する選手の姿に感動し、肯定的な言葉や支持が増えていきました。難題を乗り越え、選手や関係各位の強い情熱と努力によって無事に閉幕を迎えることができました。

社会的存在である人間にとつて、人と人とのつながり、信頼関係を基盤としたコミュニケーションは、豊かな生活をする上で欠かすことができません。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大は世の中を分断し、コミュニケーションがとりづらくなっている現状があります。学校もより複雑になっていると思ひます。

現在、常陸大宮市教育支援センターで週四日勤務をしています。悩みを抱える児童生徒や保護者が相談に来所します。来所者の心が少しでも和むように、環境を整えたり子供と活動したりしています。

健康で楽しく、ゆとりをもって日々生活しています。悠悠自

適とまではいきませんが、人と人とのつながりを大切にしたいと考えています。

校長仲間とともに

前・日立市長
多賀中学校長
内山 信弘

定年退職後、いつの間にか半年が過ぎました。新型コロナウイルスの感染状況はますます悪化し、どこにも旅行に行けない自粛生活が続いており、近所の散歩が日課になっています。道端に咲く草花を眺めながら、これまでのことを思い出したり、これから先のことを想像したりしています。

校長最後の一年間を振り返ると、コロナ禍で先が見通せない中、学校運営において、様々な判断を求められることが多くありました。そんな時、心の支えになっていたのは、校長仲間です。学校行事の実施の可否など市内の学校でガイドラインを設けたり、様々な課題解決に向けて相談したりすることで、早い時期から自分の学校の実態に応じた計画や準備を進めることができました。方向性が見えてくるだけでも不安が解消された気がしました。

ジョギングと自分探し

前・行方市長
玉造中学校長
小野口 吉政

現職の校長先生方にとっては、GIGAスクール構想による一人一台の端末を活用した授業づくりや、教職員の働き方改革など、感染防止を図りながらの難しい舵取りにご苦労されていることと思ひます。今まで経験しなかった現状であっても、強い使命感と責任感をもって学校教育を前へ進めようと奮闘されている校長先生方には、頭が下がります。どうぞ、ご自身の健康に留意しながら、このピンチをチャンスと捉え、子供たちのために創意工夫に満ちた学校教育の推進にあたっていたきたいと思ひます。微力ながら、今後とも応援してまいります。

退職した実感がないまま、四月からは新しい職場がある戸市まで、週四日通勤している毎日です。変わったことと言えば、平日に一日休めるようになったこと。この貴重な一日に何をしようかと考えましたが、とりあえずこれまで週末にしかできなかったジョギングに午前中は充てることにしました。皆さんが

感動を追い続けて

仕事をしている時間に、霞ヶ浦を見ながらのんびりと走ることができることに、これまでと違う喜びを感じています。

ジョギングを始めて二〇年余り。部活動指導の延長で始めたことが、いつのまにか趣味の一つになりました。走っていて楽しいと思ったことはありません。

でも、苦しさを乗り越えて目的地に達した時の喜びが苦しさに上になり、ここまで続けてこれました。また、走っていると、苦しさを忘れるために、いろいろなことを考えて走るようになりました。特に管理職になってからは、走りながら学校運営や教科指導・生徒指導の仕掛けを考えていると、良いアイデアが浮かんできました。それを忘れないうちにメモに残し、落ち着いたときに具体化することで、新たな取組につなげることができました。

四月からは学校を離れたので、何を考えながら走ろうかと思っていました。そのとき浮かんできたのは、退職後のこれからの人生をどう生きて行くのか、お世話になった地域や学校に、ささやかながらどう貢献し、自分らしい生き方をしていくのか、走りながら考えてみよう。さあ、今日も自分探しのジョギングに出かけるぞ！



前・守谷市立
愛宕中学校長
石井 良秋

校長として勤務した六年間、学校経営のテーマとして「感動」を掲げました。それは、最前線の担任時代からずっと追いついていくものでもありません。

感動を意識するきっかけとなったのは、初任校での出来事。「荒れ」の渦に巻き込まれながら、悩み続けた日々。三年生を担任したある年の合唱コンクールで金賞を受賞し、生徒達と一緒にみんなで感動の涙を流しました。後に文集に記されたある女子生徒の言葉が、「今まで感動で泣いたことがなかった自分も感動で泣くことができる」と知ってうれしかった。でした。

感動で人は変わるんだと気づかされたのです。それ以来、感動と共に歩んだ教員人生でした。感動への思いは、校長になってからも続きました。「感動溢れる学校にしたい」という思いを先生方や生徒たちに語りました。お陰様で素晴らしい先生方と生徒たちに囲まれ、いろいろな場面で感動の涙を流すことができました。生徒たちからは「泣き虫校長先生」との愛称もいた

できましたが、私にとってはそれもまた幸せなことでした。

校長はその学校の最高責任者です。多くのストレスやプレッシャーがかかります。コロナ禍の今はなおさらです。だからこそ、校長先生方には、その重荷を一瞬でも癒すことのできる何かを見つけてほしいと思います。

私は、この三月に定年退職をし、翌四月から再任用フルタイムとして勤務しています。体はきついですが、最前線の今も子供たちと一緒に「感動」を追いつけています。

笑顔で



前・稲敷市立
あずま西小学校長
黒澤 悦子

多くの皆様に支えられ、無事に退職を迎えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

コロナ禍の中の最後の一年間は、様々なことに悩んだ日々の連続でした。しかし、子供たちの笑顔のために全職員が一丸となつて何事にも精一杯取り組みることができ、忘れることのできない年となりました。

現在は、初任者指導教員とし

て学校教育に関わっています。とても新鮮な気持ちで先生や子供たちと過ごしながら、これまでの経験を少しでも活かしていこうと努めています。

私は以前、先輩の校長先生から「全職員が休まず揃っていることが一番である。」と言われ、その時、一人一人が生きていく仕事をすることの大切さを学びました。このことから、初任者の先生が毎日元気に出勤し、子供たちと生き生きと活動できるようにすることが私の役目であると考えています。これまでたくさんの方の不安や悩みを聴きました。配慮を要する子への対応、教科指導、学級経営、職員との関係等、涙を流されたことも。私はいつも「大丈夫。私もそうだったよ。」「子供のことを第一に考えて、いつも笑顔で接していれば必ず通じるよ。」と伝えました。出会った時、目を輝かせながら理想の教師像を話してくれた四人の先生方が少しでも目標に近づけるように寄り添いながら、しっかりと関わっていきたいと思います。

もちろん、私自身も最高の笑顔で先生方と接し、常に前向きに自分を磨いていきたいと思っています。



出合いが人をつくる



前・筑西市立
下館中学校長
福田 幸一

もうすぐ幕引き、学校経営を総括し、新年度も支障が起きないようにと引継ぎの準備を始めていた春めく午後、澄んだ瞳の女性が目の前に現れ、私の意識は、一気に新採で赴任した時に戻された。あの日の眼差しだ。最初の理科の授業で「この先生、大丈夫？」と不安な心を見透かされたように感じ、「不器用の一心に勝る名人なし」を心に刻み、教員生活をスタートさせたのは、この出会いだった。

新採の年は、英語も二クラス担当した。英語の免許外研修者は数名、クローラーの効いたLL教室なのに脂汗が流れた。

移転や分離による引越しも三校で経験した。生徒と共に、観察池の生き物もリヤカーで運んだ辛く楽しい思い出もある。

三月末に急遽の転出生、学級減、職員も減、なぜか理科の職員が異動になり、全学年の理科を一人で担うことに。追い込まれて自分を知り、鍛えられた。準備等、生徒も自主的に動き、お互いの成長が実感できた。

東日本大震災直後、育てられ

た場所に教頭として再び赴任した。縁を感じ、地域とも一体になり復興に取り組んだ。

校長職を二年間務めた後、教育委員会勤務も。「なぜ、自分が？」と思いつつも、行政での経験は、視野や人脈を広げ、現場に戻ったときに生かされた。

答えのないことにも向かい合い続けたが、自分を見てくれる人がいて、認めてくれる人がいて、助けてくれる人がいた。そして、三十数年を経て、私を労いに彼女が訪ねてきた。それも教員採用試験合格の朗報も持つて。出藍の誉れ、感無量！

「学ぶこと」の幸せをかみしめて



前・坂東市立
岩井第一小学校長
栗原 恵子

「六〇歳で退職した教員は、自分は何者かを考える。身体の節目は、心の節目。空っぽにならないためには、六〇歳までのキャリアアップでなく七〇歳までどう生きるかを考えて生活しなさい。」以前受講した研修会での講師の言葉が思い起こされる。まさに数カ月前の私の状態を言い当てている。

本年度退職し、現在は、県教

育研修センターで研修講座等に携わっている。職を与えていただいたお陰で、少しずつ心も身体も第二ステージに慣れてきた。講座の合間に次の講座のための自己研鑽を進めている。その中で心を揺さぶられたものがある。センターの事業として昨年五月からスタートした「オンライン・エドカフェ」（教育に関するテーマ学習について大阪の木村泰子先生と茨城の教職員がオンラインで対話をし、収録したものを配信である。毎回視聴する度に、本音の対話に引き込まれ「リーダーとして子供と先生方と保護者と本音で語っていたか」「学校の未来は「子供の学力の保障は」などについて自分事として考えたり、振り返ったりすることでゾクゾクしている。「もっと学びたい」という気持ちが芽生えている。目の前の子供や先生方と想い存分触れ合える現役の校長先生方を羨ましく思いつつ、私自身も、いつまでも学び続けたい。学ぶことで老いの豊かさを求め、実感しこれからの人生を生き抜きたい。

現役の皆様、心置きなく学校経営を楽しんでください。今後の皆様のご活躍をお祈りいたします。



読んでみませんか

「明日の子供たち」

著 書 有川 浩
発行所 幻冬舎
鋒田・上島東小 谷田川 千明

有川浩は、私の大好きな作家の一人である。そして「明日の子供たち」。まず題名と装丁に惹かれて手に取った。

この小説の舞台は児童養護施設「あしたの家」。そこで生活する子供たちと、その子供たちを支援する施設職員の両方の視点から描かれている。参考資料等を見ても、著者が児童養護施設を題材に、丁寧に下調べや取材を重ねて書かれた作品であることがうかがえる。

読んでみて改めて、自分が児童養護施設について何も分かっていなかったということに気付かされた。育児放棄や虐待など様々な事情を抱えた子供たち。

しかし、「かわいそうな子供」とは言われたくない。「かわいそう」という言葉は、時に非常に傲慢な言葉として響くことを思い知った。

登場人物も非常に魅力的である。施設においては聞き分けが

よく「問題のない子」である高校生の奏子と久志。壁にぶつかり、悩みながらも奮闘する新米職員の新三田村。子供に寄り添い、愛情を持って接しているその他の職員。様々な出来事を通して誰もが成長していく姿が描かれている。

施設長、福原の人間性、懐の深さにも感服する。また、読書について施設長が子供たちに語る言葉、「みんな自分の人生は一回だけなのに、本を読んだら、本の中にいる人の人生もたくさん見せてもらえるでしょ。」

「きつと、何でもいいのよ。楽しく読んだものは、全部自分の糧になるわ。」「どの本を読めば救われる、なんてことは決まっていない。誰に何が響くかは読んだ本人にしか分からない。」等も心に残った。

「価値観を転倒させろ」。作品中に何度も出てくるキーワードである。作品の終盤に描かれる「こどもフェスティバル」でのスピーチ。職員とともに策を練り、奮闘する奏子と久志。

「明日の家」の子供たちは、明日の大人たちです。」という奏子の言葉。世間の人々の強固な思い込みの壁を砕いた瞬間、目頭が熱くなった。

施設内の高校生にスポットを当てたことで、受験や就職問題

についてもリアルに描かれている。「あしたの家」では進学より就職を奨励する。経済的なリスクが伴うからだ。保護者の援助を受けられない進学は、生活が行き詰まる可能性が高い。高校を卒業したら退所し、自立しなければならぬというのは、やはり厳しい現実であろう。また、十八歳までは施設や学校が支援してくれるが、退所後のフォローをしてくれる機関は極めて少ない。今まで知らなかった現実的な問題である。

児童養護施設や児童相談所等の入った施設の建設が、地域住民の反対により頓挫したというニュースをかつて見たことがある。反対の理由は「生活環境や地域住民だけでなく、学校や子どもたちにも著しい影響を与える」「学校が荒れる」「地域の資産価値が下がる」等。それを聞いてやりきれない気持ちになったことを思い出した。しかしこの作品には、多くの人が持つているであろう先入観や偏見を覆す言葉が溢れている。

児童養護施設は、子供たちも、そこに関わる職員も、普通に生きて生活している場所である。そして、必要なのは同情や偏見ではなく、正しく理解すること。新たな世界に触れ、深く考えさせられる一冊であった。

ひばり



画・「眺める」
那珂・第二中 手塚 浩志

あの頃、

そしてこれから

久慈・依上小

塚田 薫

昭和四二年に完成した現在の校舎に、昭和四三年に入学した私。たくさんの思い出のある校舎で、後輩たちの教育に当たっている。こんな幸せな時間を与えていただいたことに深く感謝しつつ、目の前の児童にどのような教育をするべきか考えている。

「しばり」「遅れても笑われても手をにぎりしめ」と校歌に歌っているとおり、強くたくましい人財の育成を目指している。だから、コロナ禍や社会の変動、予測不能な災害などに、打ち勝つ力を身に付ける教育が目標となる。ところが私は、体力がなく病氣や怪我が多く、病院通いが常であった。人前に出る勇気もなく、「依上健児」にはほど遠い小学生であった。

現在の自分があるのは、多くの経験を通していただいたおかげであり、苦勞を共に励まし合った友のおかげである。それを後輩に伝えたい。

315

水戸・双葉台中
角谷 直人

「315」という問題を見て、すぐに県立高校入試数学の一問目を想像する教師は、私を含め古いタイプの人間である。今はなくなりつつある「引率者」が、控室で数学の問題が張り出された際、一問目の問題を見ては、一喜一憂している姿が思い出される。何度も繰り返し、解き方を教えた生徒がどんな思いで一問目と向き合っているかを想像しているのかもしれない。

学習指導要領が新しくなり、

県立入試数学の一問目も様変わりした。「いきなり」文章問題である。入試の一問目が変わった主旨は理解できる。普段の授業の質を変え、読解力を身に付ける、深い学びにシフトさせていくことが求められている。しかし、「315」をやつとの思いで乗り越える生徒がいること、文章を読むことが発達上苦手な生徒もいることを忘れてはならない。そしてその生徒の横に、粘り強く寄り添う教師がいることも忘れてはならない。

そんな先生方に働き方改革で勤務時間を引き算していくことが、私の残された努めである。

幸せは日々の中に…

北茨城・関本小中
湯原 深雪

「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。」と芭蕉は記している。コロナ禍により全く旅には行けていないが、来ては過ぎゆく、旅人のような月日を楽しもうという気概は持ち合わせているつもりだ。

本校に赴任して数か月が経ったが、最後の十字路を曲がった先の山並みに心躍らされるのは毎朝のことだ。「うーん、高原をめざしてのドライブのようだ。」と…。

しかし、私の楽しみの最たるものは他にある。それは、施設一体型の小中併設校である本校の児童生徒、職員との日々の学校生活の中にある。「一粒で二度おいしい」というキャッチコピーがあったが、まさにそれだ。小学校を味わい、中学校を味わい、連携の醍醐味をも味わう。一年生から九年生までのかわいい子供たち。校務分掌以外の仕事を埋める気働きが「チーム関本」の支えとなっているのは間違いない。私は、何と幸せなことか。これからもコロナに負けず楽しみ、幸せ発見人生を歩むぞ！

豊かに生きることが
子供のため

行方・玉造小
茂木 政則

夏休みの最初の二日間は職員旅行。それが初めて赴任した学校の恒例行事でした。若い職員が多かったためか、「これが終わってやっと夏休み。」と、三〇五年目の先輩が口を揃えてお話ししてくれました。

「無駄があつていいんじゃないかな。」と、当時の校長先生。放課後の職員室で独り言のように。若い私には、この意味が全く理解できませんでした。

ある教育雑誌にこんな言葉が記載されていたように記憶しています。「先生方には、もつと本を読んだり、新聞や雑誌に目を通してもらいたいと思う。なぜなら、教員の学ぶ姿こそが子供たちの学びへの大きなメッセージと考えるからだ。しかし、先生方には趣味に没頭したり、旅行をしたりしてほしい。一人の自立した人間として豊かに人生を送ってもらいたい。それが結局は子供たちのためになり、教材研究にもつながると思うからだ。」

長期休業前には、このことを話していました。「コロナ。早く解決してくれ！」

感謝の気持ち

牛久・牛久一中
前原 仁

私が牛久一中に赴任したのは昨年度で、新型コロナウイルスによる臨時休業中のことでした。それから新型コロナウイルスの影響が続く中、約一年半勤務して感じていたことは感謝の気持ちです。

新型コロナウイルスの影響により本校でも臨時休業や分散登校、生徒たちが楽しみにしていた学校行事の中止や規模の縮小となりました。生徒たちはいろいろ思うことはあっても、それを口に出さず我慢しました。さらには限られた中でも学校生活を楽しもうとする逞しさも見せてくれました。

また先生方も、そんな生徒たちを支え励ましてくれたり、今までとは違う学校生活や行事への対応のため奮闘してくれたりしました。

この大変な時に、自分が校長として勤められているのも、そんな生徒や先生方のおかげと思ふ感謝の気持ちでいっぱいなのです。さらには、先生方以外の多くの職員や保護者、地域の方などにも支えられてありがたい思いでいます。

だから、私はこれからも感謝

の気持ちを大切にして、皆さんに少しでも、何かお返しできるように、職務に励んでいこうと思つています。

デジタルデトックス

つくば・上郷小
大高 純子

自宅で育った私は、夏休みを迎える度にあるルールを思い出す。ピアノの音をはじめ、家から流れ出す音には気を遣え、音を出していいのは朝八時以降夜七時まで。他の家族の生活を音で邪魔するな、というものだ。気密性の高い現代住宅で暮らす今なら、回避できるのかもしれない。だが、しみついた音への怯えは、ニューノーマル時代の今、別角度から私を揺さぶる。

デジタル化の波は確実に学校にも届いている。オンライン授業に研修、会議……。様々なツールを使えば、資料の共有は勿論、指導案検討さえも、スマホ等で簡単にできる。仕事メールも同期化しておけば、いつでも確認が可能。投稿資料も通知設定すれば、何時であってもスマホは私を微振動で呼んでくれる。

この「何時であつても」が厄介なのだ。深夜二時。スマホからブルツと振動音。目を覚まして内容を確認する。夜が明けて

ときには嵐襲うとも

結城・結城南中
関 篤

四月、多くの木々と田畑に囲まれた本校に赴任した。サッカー、野球、ソフトボール、テニスコート八面をとつても余裕があるグラウンド。毎日リゾートの別荘で生活している気分を満喫中である。

結城市の南部一帯が学区で、通称、四川（しせん）地区と呼ばれている。

次年度、創立五〇周年を迎える。その記念事業に向けての企画を学校・PTA・地域が一体となつて進めている。

本校の校歌は、古閑裕而先生が作曲者である。「ときには嵐襲うとも心に花と太陽を」の一節がある。何と勇気づけられ、前を向いて進もうというエネルギーをもらえる歌だろう。心の拠り所となる宝の言葉である。

生徒たちには、校歌にあるチャレンジしていく精神と自分の心を落ち着かせて、自分を大切にしながら、他人を思いやる心をもち続けてほしいと願っている。私の教育の根底にある「人生『意欲』と『思いやり』があれば何とか生きていける」につながるものである。

四川地区のランドマークとして生徒・家庭・地域・教職員が一丸となつて、心に花と太陽をもち続けたい。

校長先生

猿島・猿島小
関塚 滋

新採教員としての嬉しさと裏腹に、実際の仕事は上手いかわず失敗だらけの日々が続きました。児童を教える育てることに自信を失い落ち込んでいた頃、校長先生からの呼び出しです。当然、厳しいご指導をいただくのだと思い校長室に入りました。

すると、校長先生から、「職員室には先生っぽい人はたくさんいるけど、みんな本物じゃあないな。だけど君は本当の本物になれる人だよ。私にはそれが分かる。ただ、それが言いたいから呼んだんだ。だから、今の調子で頑張ってくれ。」とこれだけで終わりでした。分かつて

いるけど上手くない、ジレンマを抱えた自分への優しい言葉が心に深く刺さり、泣けてきたのを覚えています。

この言葉をきっかけに、一流の指導者を求めて足繁く東京での学習会に通いました。そして、多くの実践研究や発表から文部科学省の優秀教員として表彰されることにもつながりました。

職員を察し勇気づける校長先生の声掛けが、私の心にスイッチを入れた。前を向かせたのだと思います。ただ、今でも本物たり得ず精進しています。校長として、人を育てる本気の優しさをバトンのように伝えたい、その気持ちで努力しています。

編集後記

二期期は、一人一台タブレットを活用したオンライン授業での幕開けとなりました。ICTは苦手と話していた職員も、いつの間にか笑顔で授業を行うようになり、逆境で成長へとつなげた職員間の学び合いに感動しています。「先輩と語る会」は中止となりましたが、教育への強い思いが綴られた原稿を掲載することができました。ご執筆いただきました皆様に感謝申し上げますとともに、会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

(折本)